

## 明日から夏休み

今日で1学期も終わり、明日から夏休みです。待ちに待った夏休み。いろいろな計画を立てていることでしょう。生活リズムをくずすことなく健康に過ごし、さまざまなことにチャレンジしてほしいと思います。普段なかなかできない体験をして、有意義な夏休みにしていきましょう。

## 校内人権問題意見発表会

6月21日に校内人権問題意見発表会がありました。21HRからは赤堀湊介さん、22HRからは遠藤彦乃さんが代表で発表しました。いじめ問題やインターネットの人権など、身近な人権問題について自分の経験も踏まえて考えを発表することができました。



## 人権・文化体験学習

6月22日に市場・川崎識字学級と阿波木偶人形会館、阿波十郎兵衛屋敷に行きました。

市場・川崎識字学級では、識字学級に通う方々と交流学习を行いました。識字学級のことや部落差別の実態などについて貴重なお話を聞かせていただきました。本当は話したくないことも、差別をなくすためにと話してくださった識字学級の方々の思いを受け止め、私たちに何ができるのかを考え、今後の生活や学習にもつなげていってほしいです。

阿波木偶人形会館や阿波十郎兵衛屋敷では阿波人形浄瑠璃について学びました。阿波木偶人形会館では、人形の作り方やからくりなどを教えていただきました。実際に人形の顔や手足のパーツに触れさせていただいたり、さまざまな木偶人形を見せていただいたりして、生徒たちも木偶人形の多様な工夫に関心をもつことができました。阿波十郎兵衛屋敷では、人形の操り方を教えていただいた後、阿波人形浄瑠璃を観賞しました。人形の感情が伝わってくるような繊細な動きに、生徒たちも見入っていました。さらに、各クラスの代表者が人形の操りを体験させていただくこともでき、3人で操ることの難しさも実感することができました。徳島に住む人々が創り上げてきた、阿波人形浄瑠璃の素晴らしさに触れることができました。



[生徒の感想から]

#### ○人権交流学習

- ・特に印象に残っていることはみんなで団結して人権問題をなくそうと活動していることです。識字学級の皆さんのつくった作品はとても魅力的で、圧倒されました。気持ちのこもった作品だったなとすごく心に残っています。識字学級を訪問して、人権についてもっと知りたいと思いました。そして、識字学級で学んだことを伝えていきたいです。私も人権問題をなくすため、自分自身のことだと捉えて向き合いたいと思いました。
- ・住所を知られると他の人から無視されたり、友達から「関わるな」、「しゃべるな」などと言われたりするなど、部落差別のことを学びました。差別は絶対にあってはならないと改めて実感しました。少しでもなくなるように、まずは家族や知り合いなどの身近な人に差別をなくしていくことの大切さを話すようにしたいです。そして、差別になるような言動はしないように気をつけたいです。話すことがいやだったのが、識字学級に通うと、そうでなくなったという方がいて驚きました。すごいことだなと思いました。
- ・識字について学習し、識字学級は文字を習うだけではなく、人との関わり方を知ることができる場所だと思いました。これから部落差別をなくすために、周りの人を大切にしたり、部落差別をしている人がいたら、それは間違っているといえる人になりたいです。

#### ○あわ文化学習

- ・今回阿波木偶人形を見られてよかった。いろいろな表情ができるようにたくさんの小細工があってとても工夫されていると感じた。人形遣いでは首の向き、目の向き、頭の上げ下げ、3人で高さの調整をすることなど、とても大変だった。作っている人と劇をする人によってそれぞれ思いがあることも感じた。
- ・人形浄瑠璃では、私は2回目だったのでどんなふうにするのかは分かっていたけど、何回見ても人形が生きているような感じでした。顔の表情も豊かでとてもおもしろかったし、そんなふうに入形を動かせる人形遣いさんもとてもすごいと思いました。
- ・人形のからくりで私が見たことがあるのは顔が「鬼」になるからくりだけだったのですが、今回初めて阿波木偶人形会館へ行ったら頭が真っ二つになったり、たんこぶができたからくりを見られました。鯨のヒゲや木でこんなにおもしろいからくりができるんだとびっくりしました。「人形浄瑠璃の心」であった「酒呑童子」は想像よりはるかに大きくて怖かったです。
- ・人形の劇を見て、動きが本当に生きているみたいでとても感動しました。実際に見てみると、とても興味をもてたし、昔からの文化ってすごいと感じました。
- ・人形を作る工程や実際の劇を見て、たくさんの方がものすごい時間をかけてできているものなんだなと感動しました。そして、昔の徳島の人々が創り上げたものを、文化として、今の人たちが受け継いでくれているから、今度は自分たちが受け継いでいかなければならないと感じました。